

W 学校法人 長崎学院 長崎外国語大学

80th
学院創立80周年

25th
大学創立25周年

ぶどうの樹

2025.7

NO. 35



写真：1947年当時の長崎馬町教会（「長崎YMCA」「長崎外国語学校仮校舎」の看板が並ぶ）と現在の長崎外国語大学

INDEX

特集1：「当時の恩師はいま……」

特集2：「卒業生インタビュー」

同窓生の
皆様へ

本広報誌の郵送は、今年度号をもって終了とさせていただきます。今後はHPを通じた情報発信へと移行いたします。（バックナンバーは既に本学HPにも公表しております。QRコードよりご覧いただけます。）
情報のデジタル化と環境負荷軽減のため、何卒ご理解ください。
これからも広報誌を通して、学院の今をお届けしていきますので、引き続きよろしくお願いいたします。



広報誌
「ぶどうの樹」
掲載先はこちら

当時の恩師はいま…… (長崎外国語大学名誉教授 戸口 民也先生)



長崎学院は2025年に創立80周年を迎えました。今回は特集企画として、長崎外国語短期大学時代から、長年にわたり本学で教鞭を執ってこられた戸口民也先生（フランス語専修）のインタビュー記事を掲載します。

戸口先生の研究や授業に込められた思い、外国語を学習することの意義、さらには最近のご活動にいたるまで、お話をうかがってきました。

先生がフランス17世紀演劇研究を志されたきっかけ、 研究の魅力を教えてください。

小学生の頃から子供用にリライトされたヨーロッパの物語・小説をよく読んでいましたが、中学生になると生意気にも原作をそのまま翻訳したものも読みはじめました。高校生になってからは小説から戯曲へと関心が広がり、シェークスピアなどを（翻訳でしたが）読むようになりました。とくに気に入ったのがマリヴォーというフランスの劇作家です。小説や映画も含めてフランスのものが性に合うなと感じたので、大学は仏文科に入りました。

フランス演劇とくに17世紀演劇を選んだのは、1966年、大学2年のときにラシーヌの悲劇『アンドロマック』を見たことがきっかけです。劇団四季が日生劇場で上演したものでした。大学入学当初から卒業論文のテーマはどうしようかと考えていたのですが、この劇を見てラシーヌに決めました。歌舞伎や文楽も見に行く演劇好きの学生にとって、ギリシャ古典の影響を継承するフランス古典劇との出会いは大きかったです。

17世紀という時代はフランスにとって、いわば黄金時代でした。哲学、思想、文学、演劇、美術、音楽、建築など、様々な分野ですぐれた人物たちが続出し、ヨーロッパに大きな影響を与えることになった時代です。

大学・大学院ではラシーヌをテーマに卒業論文、修士論文を書き、長崎に来てからもラシーヌを続けていたのですが、17世紀当時の演劇、とくに劇場や舞台、俳優、観客について調べるのが面白くなり、今に至っています。

外語短大・外語大でどのような授業を担当なさっていましたか。

1972年4月に長崎外国語短期大学に赴任しましたが、そのとき担当した科目で今も覚えているのが「1年フランス語文法」と「文学概論」です。

初学者向けの文法を教えるために、徹底的に仏文法を勉強し直しました。そのとき気づいたのは、自分の文法理解度はなんと浅いことかということです。「教えることによって学ぶ」とか、「しっかり学ぶためには教えることだ」などと言われたりすることがありますが、たしかにその通りだと感じました。

もうひとつの「文学概論」ですが、担当科目を知らされたときは、めまいがしました。25歳の若造がそんなだいそれたことをと。経験を積んだベテラン教授が担当するような科目ですから。これも必死に準備しました。自分が知っている僅かな知識を総動員し、なんとか授業ノート組み立てて、毎回冷や汗もので教えていました。当時の学生の一人と15年くらい経って再会したとき、その授業のことが話題になりましたが、「全然わからなかった」そうです。さもありなん…。

また、1990年代はじめごろだったと思いますが、石川昭仁先生と相談して「日本語表現法」という科目をつくりました。大学設置以降も同じ趣旨の科目を用意し、重要科目として位置づけました。もちろん、自分でも担当しました。

外国語を学ぶのが外語短大、外語大の基本ですが、日本の高校までの国語教育では、感想文やエッセイのようなものは書かせても、レポートや論文を書くための文章作法を教えていません。資料を調べ、それを踏まえて自分の意見を述べるというような文章です。大学に入るとレポートを書かされますが、それに対する準備はできていません。仕方がないので、大学でやるしかないというわけです。

それと同時に、日本語つまり自分の母語に対する認識を深めることが、外国語学習にも必要だと考えました。言葉に対するこだわりというのが、わたしにはずっとありましたから。言葉を学ぶということは、自分自身を見つめ直すことでもあります。自分の考え方、ものの見方、生き方を。

先生がお考えになる「外国語を学ぶ意味」とは何でしょうか。

フランス語の習得を通じて、自分の慣れ親しんできた世界 — ものの見方、考え方、常識 — とは違った世界があることを学んでほしいと思いながら、学生に接してきました。言葉が違えば、世界の見え方も、考え方も、随分と違って来るからです。

自分の常識や固定観念から一歩も二歩も外に出て、違った世界に自分をおいて見ることに、それが「狭い自分の殻」を打ち破る第一歩となります。

ゲーテは「外国語を知らない者は自分自身の言語について何も知らない」とも言っています。また、言葉を学ぶ意味について、フランスの哲学者で批評家のロラン・バルトは、こう言っています。

Apprendre une langue, c'est apprendre comment l'on pense dans cette langue.

— Roland Barthes (1915-1980)

ある言語を学ぶということは、その言語で人はどう考えるかを学ぶことだ。

世界には様々な言語がありますが、それぞれの言語にはその言語固有の特徴・個性があります。それは、言語によってものの見方、とらえ方、認識の仕方が異なるということです。

そのことは、外国語を学ぶことによって、知ることができます。そして、外国語と自分の言語とを比較し、違いを知ることを通じて、自分の言語特有のものの見方や認識の仕方を知ることができるようになります。つまり、自分の言語を客観的に見ることができるようになるわけです。

反対に、外国語を知らなければ、自分の言語を客観的に見ることはできないでしょう。別の言語と比べることによってはじめて理解できる違いを知ることなしには、自分の言語の特徴や個性を知ることはいけません。まさにそれが、ゲーテの言っていることです。

できれば複数の外国語をしっかり学んでほしいですね。ひとつの外国語しか知らないと、今度はその外国語がまた一つ別の固定観念 — つまり、外国語というのはこういうものだという思い込み — をつくる原因になるおそれがあるからです。複数の外国語を学べば、それぞれを比較することで、より客観的に言葉を見る目が養われるようになります。

泉町キャンパス時代の思い出を教えてください。

主な学内行事としては、もちろん外語祭がありました。教職員・学生ともに賑やかにさわいでいました。最後はキャンプファイアーのような火を盛大に燃やして締めくくっていましたが、今ではできないでしょうね。

キャンパス内で講演を頼まれたこともあります。1970年代の終り近い頃だったと思います。「言葉を学ぶ意味」という題で話しました。わたしがずっとこだわっていた（今でもこだわっている）テーマです。随分気合を入れて準備したことを覚えています。残念ながら、お客はあまり来ませんでした。

各言語の暗唱大会もありました。ある年、暗唱大会のときに大雪が降って、家に帰るのに何時間もかかってしまいました。長崎の狭い道に、雪で立ち往生した車がいっぱいになって、動きが取れなかったことを思い出します。

当時のキャンパス周辺の面影は、いまは跡形もありません。マンションが建ち、道路も広げられ整備されています。入口だった場所にキャンパス跡地の碑がありますが、それだけです。

当時の学生たちはみな、陽気で、屈託がなく、元気いっぱいでした。今も多分そうでしょうけれど。

最近のご活動について教えてください。

16世紀末から17世紀はじめに活躍した、ある俳優の評伝に取り組んでいます。実は、若い頃始めた研究課題だったのですが、中断したまま長い時間が経ってしまいました。いわば店晒しにされた宿題のようなものです。これだけはなんとか仕上げないといけないと思っていますが、なかなか進みません。

数年前から取り組んでいるのは、ジャック・フィリップというフランスの司祭の著作の翻訳です。ところが本を出してくれる出版社が見つからないので、自分で出版業を始めました。それが戸口書店です。パソコン一台で、翻訳から編集、表紙のデザインまで、全部一人でやっています。戸口書店についてはこのサイトをどうぞ (<https://toguchi.base.shop/>)。

最後に本学の卒業生及び在学生に向けて、エールをお願いします。

卒業生に向けて 「違いがわかる人になっているでしょうね。」

在校生に向けて 「言葉を学び、新たな世界に旅立とう！」

戸口先生、ありがとうございました。

今回掲載された特集記事は戸口先生に対するインタビューの一部を編集・抜粋したものです。詳細については別途、本学の『新長崎学研究センター紀要』第5号への掲載を予定しています。

ぜひともご期待ください！

(インタビュー：富田 高嗣、記録・編集：藤本 健太郎)

卒業生インタビュー

初村 健矢さん

－ 2011年度春季卒業

長崎出身。ナレーター、声優、V・ファーレン長崎スタジアムMC。2012年上京し、声の表現の基礎を学ぶ。2015年から事務所に所属し、テレビ番組やCM、アニメや吹替などさまざまな分野で2,000件以上の声を担当。2024年に独立し、長崎へUターン。現在は地元長崎での活動を中心に、東京や福岡などのスタジオ収録、さらにアメリカやイギリス、スペインなど海外向けの日本語音声を自宅スタジオから収録。アメリカ「Voice Arts Awards 2023」で2部門の最優秀賞を受賞。



在学中の思い出について

映画の字幕翻訳の授業が印象に残っています。元々映画好きだった私にとってはただ日本語に直訳するのではなく、作品やキャラクター性に沿った言葉を選び、それを制限された文字数で表現する楽しさがありました。吹替翻訳だと口の形や動きにあった言葉選びになるなど、そのとき初めて知った気がします。まさかそれが今の自分の仕事に繋がるとは思いもしませんでした（笑）。外国語大学は異文化や多様な価値観に自然と触れられる環境が魅力だと思います。キャンパスには世界中からの留学生がいて「長崎にいながら世界と繋がっている」という感覚が常にあり、視野も広がるきっかけになったと感じています。

外国語大学で学んだ「挑戦すること」「受け入れること」「ことばで想いを届けること」。この3つは、今の自分を支える大切な軸です。「ことば」は単なる言語スキルではなく、相手の気持ちや考え、人柄までも伝える力があると気付きました。伝えたいことの本質をどう形にするか、その感覚が今の仕事の土台になっています。

創立80周年に向けての思い

長崎外国語大学は、ただ語学を学ぶ場ではなく、「ことば」を通して世界と出会い、自分自身と向き合える場所だと思っています。私自身、ここでの出会いや挑戦が人生の転機となり、今の仕事や生き方につながっています。80周年という節目を迎え、これからも地域に根ざしながら世界とつながる人材を育てる大学であってほしいと思います。そして学生一人ひとりが自分の「好き」や「得意」に正直に向き合い、それを信じて歩いていけるような、あたたかくてチャレンジに満ちた環境であってほしい。そう願っています。これから先、長崎から世界へ羽ばたく多くの若者たちが、ここでの経験を糧にそれぞれのフィールドで活躍していく。そんな未来を想像すると、卒業生としてとても誇らしく、心が弾みます。そして私自身も、ふるさと長崎から言葉の力で人と世界をつなげていけるよう、これからも一歩ずつ歩んでいきたいと思っています。



多方面で活躍している卒業生に、大学時代の思い出や創立80周年に向けての思いなど大学にまつわるインタビューを行いました。

九谷バイオレット杏さん

－ 2024年度春季卒業

アメリカ合衆国ワシントンD.C.出身、熊本県育ち。熊本信愛女学院高等学校卒業後、地元を離れ長崎外国語大学に入学。大学ではフランス語を中心に長崎学なども積極的に学修。学友会執行委員長を経験し、新たな学内イベントの企画、運営を行う。在学中1年間休学し渡米。帰国、卒業後は長崎県内の飲食店に就職し、商品開発などに携わる。現在は長崎検番にて、芸妓衆となるために日本舞踊や三味線、お囃子などの稽古に励んでいる。



在学中の思い出について

学友会での思い出がやはり色濃くのこっています。コロナ禍での学生生活という事もあり、何も思い通りに進まない中でどうしたらイベントが出来るのか同じ学友会のメンバーと話し合い続けていました。喧嘩する事も少なくありませんでしたが、今ではそれもとても懐かしく感じます。学校が閉まるギリギリまで準備や企画書作りをした後、遅くまで語り合える元気な後輩達にもめぐられました。あの時の大変さと楽しさは今でも大切な思い出になっています。

創立80周年に向けての思い

終戦後いち早く母体の作られた長崎外国語大学の歴史は、長崎復興の歴史と共に進んできたものと思います。古来長崎は国際港として多くの知識や文化、新たな視野を学び得る場所でありました。多くの若者が全国からここ長崎に集い、新たな世界に出会ってきたのだと思います。私の在学中にはコロナの大流行があり、たくさんの学生が普通の学生生活や留学を諦めました。そんな中でも先生方のサポートのもと、各々の方法で国際的な多文化社会の学修に努め卒業していきました。在学生の方々もたくさんの困難や逆境にぶつかる事もあると思いますが、決して負ける事なく挑戦する事で得る新しい経験を大切にいただきたいと思います。変化の目まぐるしい社会情勢を国際的な視点で見つめる力を養い、逆境に負けない国際人を育成する場としての長崎外国語大学の発展をお祈りしております。



平和を実現する人づくりを目指して ——学院創立80周年に寄せて——

小西 哲郎

平和を実現する人々は、幸いである、
その人たちは神の子と呼ばれる。(マタイによる福音書5章9節)

2025年12月1日に長崎学院が創立80周年を迎えるにあたり、わたしたちの学校の歩みを振り返り、創立者・青山武雄^{あおやまたけ お}先生の建学の精神に思いをはせてみたいと思います。

学院の創立記念日である12月1日は、1945年当時長崎馬町^{うままち}教会の牧師だった青山先生が、学校教育事業を新たに興すにあたって、二人の同志とともに祈祷会を持った日です。そこで青山先生たちが神さまに何を祈り願われたのかは、今となっては知る由もありませんが、そこでの「祈り」にこそ本学の出発点があったゆえに、この日が創立記念日とされているわけです。ではその創立者の願い＝建学の精神はどのようなものだったのでしょうか？どのような「人づくり」を目指してわたしたちの学校は建てられたのでしょうか？

端的に言って、「平和な世界の実現に貢献できる人づくり」のために、青山先生はこの学校を始められたと、わたしは考えています。なぜなら、先の戦争への深い反省による反戦・平和への決意が、原爆の被爆者であった青山先生を突き動かしていたと思えるからです。

言うまでもなく戦争は国家事業です。そしてナショナリズムでもって国民を一致団結させ、国民の戦意を高揚することで、国は戦争を遂行します。ナショナリズムは、国家の大義名分のもとに人を殺すことを正当化し、国のために命を捨てることを美化・強要する、おぞましい面を持っています。そのことをわたしたちは先の戦争で嫌というほど思い知らされました。ですからナショナリズムを発揚する動きにわたしたちはいつも注意・警戒を怠ってはいりません。

大日本帝国の侵略戦争とナショナリズムに批判的だった青山先生のエピソードをご紹介します。戦時中、国家総動員体制のもと、国威発揚・戦意高揚のために、家の外に「日の丸」の旗（日章旗）を掲揚するよう各家庭に対して国から指導がありました。それで当時、住宅や店舗は日章旗を外に掲げていました。そのような中で、日本の侵略戦争に批判的だった青山師は、司牧する馬町教会にあえて日章旗を掲揚しなかったそうです。これは相当な勇気と覚悟を必要とする行動でした。なぜなら日章旗を掲揚していない家は、巡回視察している警察から注意を受け、にらまれたからです。そこで青山師夫人の彪子^{としか}さんが、子どもたちと一緒に、夜にこっそりと教会の外に日章旗を掲げていたそうです。この話をわたしは彪子夫人の前夜式で、青山師次男の三好 曠^{みよひろし}氏から直接お聞きしました。「とても怖かったです」と、まだ子供だった当時の思い出を真剣な表情で三好氏が述懐されていたことが印象的でした。青山先生が国家になびく人でなかったことは、このエピソードからうかがい知ることができます。

ナショナリズムを煽るのでなく、むしろ逆に、異なる国の人々と謙虚に対話し、相互理解を目指すことを青山先生は志向されたのでしょうか。そしてそのためにまず必要な外国語を使える人を養成するというのが、「長崎外国語学校」（1947年）、「長崎外国語短期大学」（1950年）、「長崎外国語大学」（2001年）の歩みを貫く本学の建学の精神ではなかったかと思うのです。

「わたしたちの学校は『祈り』をもって始まった学校です」と山本敏明^{やまもととしあき}先生（元理事長）が繰り返しおっしゃっていたことを思い出します。80年前の創立者の祈りをわたしたちの祈りとし、建学の精神を受け継ぐわたしたちでありたいと願っています。

（学院宗教主任）

外大で平和について学ぶ ～ Peace Studies (平和学) ～

ダニエル・クラウセン講師 (科目担当者)

平和学の授業を担当することになったきっかけ

2022年に、長年本学で教鞭をとってこられたマーク・ティードマン先生から「平和学」の授業を引き継ぎました。先生から受け継いだ豊富な資料を基に、学生の関心に合わせて内容を見直しながら授業を展開しています。



ダニエル・クラウセン講師

授業における革新と困難

この授業を行う中で最も難しいことの一つは、取り上げるべきテーマの取捨選択で、国際連合の制度、環境安全保障、移行期正義、ジェンダーと平和構築など、非常に多岐にわたります。最近では、「文化フィールドワーク」の授業と合同で平和関連施設を訪問し、グループレポートを作成するなど、言語や文化の壁を越えて協働すること自体が、重要な「平和の学び」となっています。また、授業は英語で行うため、言語面での配慮も欠かせません。

授業を通じて感じたこと・気づいたこと

学生たちが理論を実践へと繋げていく姿を見ると、とても嬉しく思います。授業の課題の一つに「Peace Bingo (平和ビンゴ)」という、学生が複数のミニプロジェクトを選んで取り組むものがあります。言語と平和の関係をテーマにした短編映画を制作したり、公共政策の会合に参加したり、被爆者の体験をアートで表現したり、様々な学生がいますが、こうした取組を通じて、学んだ知識を現実の社会に応用し、大学というコミュニティをより平和な場所にしていく意識が育まれていると感じます。

将来への思い

この授業が、これからも長崎外国語大学における平和教育の伝統を引き継ぎつつ、常に進化し続けていくことを心から願っています。

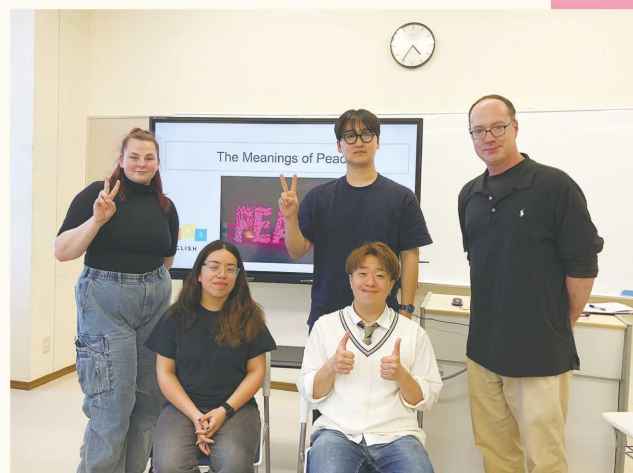
ヘイリー・ロジャースさん (受講生)

この授業を選択した理由

平和の実現は難しいことだと思っていたからです。しかし、授業を通して必ずしもそうではないことを学びました。また、私が興味を持っている非営利団体では、多くの場合、平和が重要なテーマとなっています。平和学は、単に戦争を回避するための学問ではなく、共感や対話、社会正義の問題、そして紛争解決についても学ぶため、私の将来のキャリア目標を理解する手助けにもなると感じました。

この授業で学びたいこと

平和が大衆文化の中でどのように表現されているのかという点です。私は日常的に、対面でもインターネット上でも大衆文化に囲まれて生活しているので、この授業で学んだことと大衆文化とのつながりを見つけられたら嬉しいです。他にも、平和運動がどのように機能するのか、そしていくつかの平和運動がどのようにして暴力的な運動に変化していったのかについても学びたいと思います。平和運動の歴史を学ぶことは、これからの平和運動が同じ過ちを繰り返さず、良い平和運動を築くための助けになります。過去を忘れないこと、そして同じ過ちを繰り返さないことは、平和学における重要な概念です。私は暴力ではなく対話を優先できる世代の一員でありたいと強く思っているため、この授業を受講できることをとても嬉しく思います。この授業は、私の視点を変えるだけでなく、積極的に世界に貢献するための準備にもなると感じます。

Peace Studies 受講生とともに
(左端：ヘイリーさん、右端：クラウセン講師)

第1回韓国オーマイニュースインターンシップ参加記録

2025年1月13日から17日までの5日間、大学との協定に基づき、韓国の新聞社「オーマイニュース(OhmyNews)」ソウル本社にて、初のインターンシップが実施されました。韓国語専修の学生4名が参加し、1学期間にわたる事前授業を経て本プログラムに臨みました。

オーマイニュースは、2002年に韓国でスタートしたインターネット新聞で、「すべての市民が記者である」という理念のもと、一般市民も編集部の確認・編集を経て記事を執筆できる市民参加型の報道を特徴としています。

事前授業では、インターンシップでの記事執筆を目標に韓国の新聞記事を幅広く読み、多様な言論に触れて関心の幅を広げながら、書きたい記事に関連した知識の深化に取り組みました。

インターンシップは午前と午後の2部構成で、多様な教育プログラムと課外活動が行われました。教育プログラムでは、市民ジャーナリズムの理念や世論の形成過程、記事発行の流れなどについて講義を受け、最終的に全員が記事を執筆することができました。

課外活動では韓国を代表する公共放送局の一つであるMBC(文化放送)のラジオ局や、国会議事堂、国会議員室を訪問しました。ラジオ局では実際の収録現場を見学し、プロデューサーとの対話を通してKコンテンツの制作過程を知る貴重な機会となりました。また、国会訪問では政治部記者団から韓国の政治状況や大統領弾劾問題について記者視点での見解を伺うこともできました。

僅か一週間という短い期間ではありましたが、非常に充実した意義深い時間を過ごすことができました。今後、本インターンシップがさらなる発展を遂げ、韓国への理解を深める機会として継続されていくことを期待しています。

田川 陽大



長崎学の優れた自由研究に「長崎外国語大学長賞」を授与しました

2月11日(火)、長崎学の自由研究を表彰する「長崎学児童研究コンクール表彰式」(主催:長崎市長崎学研究所)が実施されました。本学では事業協力の一環として2022年から「長崎外国語大学長賞」を設けており、今回も受賞者に対して石川学長から表彰状の授与が行われました。

今回の受賞作品「どうして中国のお寺が日本にあるの?」は、ふんだんなイラストや写真とともに、日本と中国の寺院の建物の作り方や色づかいの違いなど、一生懸命に本を読んで勉強した成果をご自分の感想を含めて表現できており、長崎と中国とのつながりを感じさせる作風が高く評価されました。受賞おめでとうございます!



諫早商業高校と中国の高校の交流に協力

長崎県立諫早商業高等学校と中国の広東省佛山市にある倫敦中学(高校)とのオンライン交流に本学が協力をしました。本学と国際交流協定を締結している倫敦中学から、日本の高校生と日本語と中国語を使って交流をしたいという要望があり、諫早商業高校に相談をしたところ、同校の国際コミュニケーション科の生徒さんたちとの交流が実現しました。

まず、昨年の2月25日にオンラインで両校の生徒さんたちは日本語と中国語を使って、それぞれの街についての紹介を行い、また自由に話をしてもらうことができました。今年の5月7日にも2回目のオンライン交流が行われています。

これをきっかけに、諫早商業高校の生徒さんたちと本学の留学生と英語で交流をするイベントも開催されることになりました。今後もこのような形で地域の学校との交流促進に寄与していきたいと思います。



2025年度新任教職員紹介

現代英語学科



4月に着任し、英語Writing科目や、アメリカ文化・文学の関連科目を主に担当しています、黒木優介と申します。専門はアメリカ文学で、特に20世紀のアメリカ演劇を研究しています。外国語に関心を持ち、本学の門をくぐった皆さんが、文化や文学を媒体としてより深い知見を獲得するための手助けができればと考えております。遊びも学びも懸命に、豊かな人生を送るためにともに頑張りましょう。

講師 黒木 優介

国際コミュニケーション学科



初めまして。この春から長崎外国語大学国際コミュニケーション学科韓国語専修に着任しました岡崎享子と申します。専門は在日朝鮮人文学で、最近韓国文学にも関心を持っています。おもに韓国語の授業を担当しているのですが、文学作品を通して言語のみにとどまらないその背景にある韓国の文化や社会を知り、理解を深められる授業ができればと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

講師 岡崎 享子



4月から長崎外国語大学でフランス語を教えています、ファミ・イマンと申します。2018年にJASINプログラムでこの大学に留学しました。今回は教員として戻ってくることができて、とても嬉しいです。学生の皆さんが、楽しくフランス語を学びながら、しっかり力をつけられるよう手伝えたら嬉しいです。「楽しい」と「まじめな学び」をうまくバランスを取り入れて一緒にフランス語を勉強しましょう。学生の間に色々な経験をして自分の世界を広げてほしいと思います。

特別任用講師 FAHMI Imane



4月より特任講師として着任した、梅本将司と申します。主に留学生の日本語科目を担当しております。以前はタイの大学で勤務しており、学生時代はインドネシアに留学していました。最近は国際交流を積極的に推進しています。特に近年は技術が発展し、日本にいながら様々な国の人たちと接することができるようになりました。外大でもユニークな活動を企画して、みなさんに提供したいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

特別任用講師 梅本 将司



4月から長崎外国語大学に着任いたしました。韓国語の教育を通じて、学生の皆さんが言語のみならず韓国の文化や歴史にも興味を持ち、広い視野を育めるよう尽力したいと思います。学生と意味のある学びの時間を共有できますことを、心より楽しみにしております。これからどうぞよろしくお願いいたします。

特別任用講師 千 受珉

事務職員



アンペロス寮の事務室にいます本庄です。寮生が快適な寮生活をおくることができるように、お手伝いをさせていただきます。

時々、事務室窓口も覗いてください。
アンペロス寮管理室 本庄 周



アンペロス寮で寮母をしている山下です。初めての仕事で戸惑う事ばかりですが、学生の皆さんが楽しくまなび、遊び、沢山の思い出が作れるようにお手伝い出来るように頑張ります。
アンペロス寮管理室 山下 弘美

旅程管理研修について

本学院は、学校法人では全国初の観光庁長官登録研修機関（第23号）として、2007年度より添乗員やツアーコンダクターと呼ばれる旅程管理主任者の資格を取得するための研修を開講しています。

学生のみならず、一般の方の受講も可能です。今年度の研修詳細は、本学ホームページよりご確認ください。

旅程管理研修の受講者・修了者報告(2007年度～2024年度)

	総合	総合(国内免除)	国内	合計
受講者数	531	19	252	802
修了テスト受験者	527	19	252	798
修了者数	462	16	237	715

旅程管理研修のご案内▶

お問合せ先

学校法人長崎学院 旅程管理研修機関事務局

TEL : (095) 840-2006

E-MAIL : ryotei@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp



● 同窓会だより ●

今年もホームカミングデー開催が決定！

全卒業生の交流イベントであるホームカミングデーの開催が今年も決定いたしました。
毎年、世代問わず多くの卒業生と懐かしの先生方にご参加いただき、「そんな時代もあったね」の思い出話を始め、世代を越えた外大談議に笑顔が咲きほころびます。
そんな暖かくも懐かしい感覚を味わえるホームカミングデーに、あなたも参加しませんか？
今年も、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

【Home Coming Day2025】

●開催日：2025（令和7）年11月1日（土） ●参加費：お一人様3,500円
*お申し込み、詳細につきましては長崎外国語大学ホームページ（右QRコード）
イベントよりご覧いただくか、長崎外国語大学社会連携センター事務室（TEL：095-840-2006）までお尋ねください。



長崎外国語大学同窓会
Instagram始めました！



@NUFSAA
フォローお願いします

【ご報告】

2025年2月末日に開催されました令和6年度第2回長崎外国語大学同窓会代議員会にて、下記のとおり、副会長及び監事の交代がありました。
謹んでご報告申し上げます。

退任 副会長：野田亜希子氏（短大卒49回生）
監 事：石本 浩貴氏（短大卒51回生）

新任 副会長：石本 浩貴氏（短大卒51回生）
監 事：藤田 勇樹氏（2015大学卒）

● 保護者会だより ●

コロナ禍が収束を迎え、高校生の間、制限のある暮らしを送ってきた私たちの子どもたちは、憧れた大学生生活が送れる日常へと戻りつつあります。そのような中、保護者会は発足以来18年目を迎えました。

主な活動内容は、年に6回ほど大学へ集まり情報交換を行いながら、サークル活動やスポーツ大会などの課外活動支援、外語祭に籠町龍踊保存会を招聘、教育活動支援、入学・卒業式や留学許可書授与式への式典支援等を行っています。昨年度は設備整備支援として、学生食堂へウッドデッキを寄贈し、多くの学生に喜んでもらっています。

今年は長崎学院創立80周年・長崎外国語大学創立25周年記念事業への協力も行っていくことを事業計画に挙げております。微力ではありますが、大学と連携し、今後も学生たちがより良い大学生生活が送れるように支援していきたいと考えていますので、皆様方におかれましては保護者会活動へのご理解、ご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。



長崎外国語大学 保護者会
会長 山本 充孝



教育研究の整備に関わる寄付事業のお礼と報告

2015年4月から開始いたしました「教育研究の整備に関わる寄付事業」は、2025年3月末現在で1,113件、5,755万円（内、2024年4月1日～2025年3月31日：69件、647万円）のご寄付を賜りました。ご支援をいただきました保護者会、在学生保護者、卒業生、お取引先をはじめとした多くの皆様に深く感謝申し上げます。

皆様の温かいご支援にお応えすべく、教育環境の整備のために鋭意努力をして参る所存でございますので、今後とも本事業の趣旨にご理解とご協力をお願い申し上げます。

寄付者ご芳名一覧 2024年4月～2025年3月ご寄付分
たくさんの温かいご支援ありがとうございました

個人の部										(敬称略)
秋月 篤子	石川 昭仁	石橋 三枝子	一宮 啓祥	岩田 耕作	植木 啓子	川原 仁幸				
岸川 善彦	古賀 英信	小道 隆	佐藤 辰巳	平 敏孝	田端 安範	鳥實 佑香				
長崎外国語大学保護者会		西本 ひろみ	花田 豊	原田 澄	原野 浩二	春海 賢一				
平下 美登里	深堀 武史	松尾 博則	水元 敦実	宮崎 昭義	森脇 浩	安田 正次				
山下 慶一	吉岡 みどり									
法人の部										
(株)アイコック		(株)稲崎産業		扇精光ソリューションズ(株)						
(有)大谷書店		(有)九豊工業		(株)クリーン・マット						
(株)サーブネット		(株)松栄設備		(株)セキュリティハウスセント						
長崎外国語大学ビジネス(株)		(株)長崎消毒社		(株)西九州エレベーターサービス						
星野管工設備(株)		(株)松田久花園		(有)ランカードコム						
(株)一広		(有)小田警備保障		(有)協和自動車工業所						
(株)クイックプリント		一般財団法人 長崎YMCA		林兼石油(株)長崎支店						
(株)プロゼ										

寄付に係る税金（所得税・住民税）の優遇制度について

寄付をされると次の要領で税金が戻ってきます。詳しくは、法人事務局財務課までお問い合わせください。

個人 寄付金が2千円を超える場合は、超えた金額に40%を乗じた金額が税額控除されます。
【(注)：寄付金額は年間総所得金額の40%、税額控除は所得税額の25%がそれぞれ限度額となります。】
寄付をされた翌年1月1日現在、長崎県内の市町村の住民税課税対象となっている方は住民税についても寄付金控除が適用されます。
※上記以外の自治体の住民税課税対象となっている方は各自治体のホームページでご確認くださいか、直接自治体へお問い合わせください。

法人 受配者指定寄付金によって、日本私立学校振興・共済事業団を通じて寄付していただきますと、法人税法上、その寄付金を全額損金へ算入できます。【事前の手続きが必要です。ご説明をいたしますので寄付の際は大学にお申し出ください。】

ご寄付のお申し込みについて

本広報誌郵送時に同封している書類をご覧ください。
ご不明な点等につきましては、お電話またはメール
で以下「お問い合わせ先」までお気軽にお尋ねください。

お問い合わせ先	学校法人長崎学院 長崎外国語大学 法人事務局 財務課（担当：森脇） Tel 095-840-2003（法人財務課直通） Email zaimu@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp
---------	--

本学院広報誌「ぶどうの樹」は、2024年度より年1回夏頃に発行しています。



長崎外国語大学の図書館には、時を超えて語りかける一角があります。そこに並ぶのは、学院創立者である青山武雄先生が長年にわたり蒐集された、長崎の歴史、キリスト教、教育に関する貴重な蔵書の数々。

書架の一冊一冊が、異文化交流の歴史と、深い対話の軌跡を静かに語りかけてくれます。



長崎外国語大学 2025年度 年間スケジュール

今年度、本学では以下のイベントを実施、予定しています。

春	4月2日	2025年度 春季入学式
	5月17日	スポーツ大会
	5月18日	長崎外国語大学保護者会定期総会
夏	7月19日	オープンキャンパス
	7月23日	留学許可書授与式
	8月2日・10日	オープンキャンパス
	8月7日～9月26日	夏季休暇(夏休み)
秋	9月25日	秋季入学式
	9月26日	秋季卒業式・卒業パーティー
	10月4日・11日	長崎外国語大学地区別保護者懇談会(長崎・福岡)
	11月1日・2日	第73回外語祭
冬	12月13日	英語ボキャブラリーコンテスト
	12月17日	全学クリスマス礼拝
	2月11日～3月31日	春季休暇(春休み)
	3月7日	保護者対象留学説明会
	3月19日	2025年度春季卒業式・卒業パーティー
	3月20日	春のオープンキャンパス

※既に実施済のものを含みます。予定は諸事情により変更されることがあります。